

## 学校主導の場合を想定した学習指導案

### 1 単元名

高等学校公民科「公共」 政治参加と公正な世論の形成

### 2 内容のまとめ

B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

### 3 単元の目標

よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解させる。

### 4 単元の指導計画（計 6時間）

①私たちと選挙（1時間：本時）

②選挙の現状と課題（1時間：本時）

③世論の形成と政治参加（1時間）

④国会と立法（1時間）

⑤内閣と行政（1時間）

⑥地方自治と住民福祉（1時間）

※ 今回の模擬投票授業のために、①と②の時間数を増やすなど、柔軟な指導計画の作成も考えることができる。

### 5 本時（2時間）の目標

(1) 一人でも多くの若者に主権者意識を持って投票など政治に参加できるように、講義、模擬投票及びワークショップ等を通じて、選挙の仕組みや投票参加の意義について理解を深めさせる。

(2) 政治で取り上げる社会の諸課題への関心を広げながら、実際の選挙の際に自分が何を基準に投票先を選択するのかを現実的に即して体験させ、政治参加を促すきっかけとする。

### 6 留意事項

(1) 札幌市内の高等学校又は高等学校に準ずる学校の「総合的な探究の時間」や公民科「公共」、「政治・経済」等の授業を補完するものとして、又は、授業の一環として行う。

(2) 公職選挙法に抵触することのないように十分配慮し、「政治的中立性」の確保や満18歳未満の者の選挙運動禁止の観点から、校内で選挙運動が行われることがないように指導していく。

(3) 実施する基本的授業時間は、単元の指導計画6時間のうちの2時間とする。

## 7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国民主権が民主政治の根幹であり、日本国憲法の基本的原則であることを理解する。</li> <li>・ 民主政治は多数決に基づいて行われることが基本で、主権者である国民が、選挙や国民投票、直接請求権などを通じて政治に参加し、政治の在り方について最終的に責任を持つことになることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民主政治や地方自治の発展に寄与する自覚や自治意識の涵養に向けて、18歳選挙権の趣旨を踏まえ、選挙の意義について考察し、政治的無関心の増大が持つ危険性をも考え、自分の意見を踏まえつつ、他者の意見を聴取し、比較し、社会への課題意識を広げながら、政策を判断し投票先を選択する判断の根拠をまとめ、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各政党のマニフェスト（政策公約集）を比較し、具体的な社会の諸課題を取り上げることで民主政治に対する関心を高める。</li> <li>・ 模擬選挙を振り返り、有権者になることを自覚し、政治参加の重要性についての理解を深め、それに向かう姿勢を持つ。</li> </ul>

## 8 指導と評価の展開（●＝「学習改善につなげる評価」、○＝「評価に用いる評価」）

次	ねらい・学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
1 時間目 導入 【講義】 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投票参加の意義や選挙の仕組みを学ぶだけでなく、実際の選挙の際に自分が何を基準に投票先を選択していくことになるのか、過去の選挙公報を題材に、現実即して、これからの授業で体験することを理解する。</li> <li>・ 体験授業の前後で、投票に対する生徒の意識がどのように変化したかを見るために、最初に、「18歳になったら投票に行きますか」「その理由は」というアンケートの設問に回答する。</li> </ul>			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この授業の二つの目的を理解している。</li> <li>・ アンケート用紙（設問1）に解答することで、生徒自身の現在の投票意識を自覚している。</li> </ul>
展開 【個人ワーク】 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の自分の位置を確認する。</li> <li>・ 過去の選挙公報（令和元年参院選の「比例代表」）を題材に、そこから得られる情報だけを基礎として、どの政党に投票したいかを、ビフォー・アフター用紙の「ビフォー欄」に理由とともに記載する。</li> <li>・ 用紙には敢えて、「白紙投票」や「投票棄権」も選択肢として設定し、生徒はそれらを選択できる。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去の選挙公報を読み取り、生徒自身の現実社会の諸課題に対する関心や、公報そのもののあり方について理解している。</li> <li>・ ビフォー・アフター用紙の「ビフォー欄」の活用。</li> </ul>
【講義】 15～20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投票参加の意義と選挙の仕組みを学ぶ。</li> <li>・ H29衆院選を例に、20歳代の投票率が33.9%と最も低く、60歳代の72.0%の半分に満たないことと、全有権者数のうち30歳代以下の占める割合が約27%に対して60歳代以上が42%となっていることを説明した</li> </ul>	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パワポ資料による説明を聴き、随時、メモ等を取り、「選挙の仕組み」を理解する。</li> </ul>

	<p>上で、客観的な調査結果などをもとに、現状では、若者よりも高齢者の声 が反映されやすい民主主義になりが ちであることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 選挙の種類、選挙権、投票の流れ、期 日前投票、不在者投票、コロナ療養者 の郵便等投票、情報入手手段、選挙違 反となる行為など、「選挙の仕組み」 に関する説明を聴く。</li> <li>• その際、是認するわけではないが、若 者の投票実態を踏まえ、「白紙投票」 と「投票棄権」の意味の違いについ ても敢えて説明されていることを受け 止める。</li> </ul>				
【グル ープ ワーク】 10～15 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現実社会の諸課題への関心を広げる。</li> <li>• 「比較一覧」に掲げる政策テーマの中 から、自分が関心のあるものを「一つ」 選んだ上で、順番に一人ずつ、なぜそ のテーマに関心があるかを発表し、意 見交換を行う（その際、テーマの重複 を極力避ける）。</li> <li>• これにより、生徒は現実社会の諸課題 への関心を広げることができ、かつ、 それらに対する理解を深めることが できる。</li> <li>• なお、このグループワークでは、どの 政党の考えを支持するかを発表し合 うものではないことと、つい熱くなり、 仮にそのことに踏み込んだ意見交 換に発展していったとしても個人の 考えは尊重されるべきものであるこ とから、グループワークの間 中は、「（相手を）否定しない」「（自 分の）考えを押し付けない」の二つを 守るべきルールとして事前に設定し、 理解させる。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 早稲田大学マニフェスト研 究所作成の「政党公約政策 比較一覧」を活用し、グル ープ学習により、現実社会 の諸課題への関心を広げ ることができている。</li> </ul>
《休 憩》					
【2時間目】 【個人ワ ーク】 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「比較一覧」に掲げる政策テーマの中 から、関心の高いものを「三つ」選ん だ上で、各政党の考えを読み込み、自 分の意見に沿うと思うものに丸印を 付け、それを踏まえて、どの政党に投 票したいかを、ビフォー・アフター用 紙の「アフター欄」に理由とともに記 載する。</li> <li>• 「ビフォー欄」と同様、用紙には敢え て、「白紙投票」や「投票棄権」も選 択肢として設定、生徒は選択できる。</li> <li>• ビフォー・アフター用紙は、投票の秘 密保持のため、回収しない。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ビフォー・アフター用紙の 「アフター欄」への記入に よって、新たな知識を身に つけ、現実社会の諸課題に ついての考えを深めるこ とができている。</li> <li>• 投票に当たって、より具 体的な考え方から、投票先を 選択できている。</li> </ul> <p><b>【ここが大切！】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 全ての政策テーマについて 政党比較しなければなら ないと考える生徒もいれ</li> </ul>

					ば、その逆の生徒まで幅広くいる中で、生徒一人ひとりの状況に応じて司会者や教員からの適切な助言を受け、生徒が「これぐらいでもいいんだ」「それならやってみよう」と思って投票先を決めていくプロセス自体が、生徒自身の投票先決定のハードルを下げることに繋がる。
【模擬投票】 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>投票を体験する。</li> <li>ビフォー・アフター用紙の「アフター欄」に基づき、実際の投票を体験する。「投票棄権」を選択する場合、投票の秘密保持のため、便宜的に「きけん」と記入して投票する。</li> <li>投票を終えた後、「ビフォー欄」と「アフター欄」とを見比べて、気付いたことをアンケート用紙に記入する。その際には、投票先を選ぶに当たってどの政策テーマを大事だと捉えたかも記入する。</li> <li>(時間に応じて開票作業の一部を生徒も手伝いながら) 投票用紙を分類・集計し、開票を確認。</li> </ul>			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>記載台、投票箱、投票用紙、投票用紙計数機など、具体的な投票や開票の方法を体験し、投票への意識を高める。</li> <li>アンケート用紙(設問2、3、4)への記入によって、投票先を選ぶ際のプロセスや心構えを理解し、さらには、自らの選択基準を認識できている。</li> </ul>
振り返り 【個人ワーク】 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の実際の選挙結果と校内の開票結果を比較して、①どこが違うのか、②その違いはなぜ生じるのだろうか、③その違いを踏まえて、今後自分がどのように選挙に向き合おうと思ったかなど、例示された観点を参考に、自分の考えをアンケート用紙に記入する。</li> <li>最後にもう一度、「18歳になったら投票に行きますか」「その理由は」というアンケートの設問に回答し、提出する(氏名記入不要)。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の開票結果と過去の実際の選挙結果とを比較し、考えたことをアンケート用紙(設問5)に記入し、投票の意義を自覚している。(記述)</li> <li>まとめのアンケートに回答することで、選挙に対する意識を高めることができた。(記述)</li> </ul>

※ アンケート用紙については無記名で回収する扱いを前提としているが、評価のために必要がある場合、主に投票への向き合い方などを問う設問2～5に関してのみ、設問1と設問6とは別に切り離れた様式を作成するなどして、氏名記入の上で提出させる運用も考えられる。

## 9 主権者教育としての留意点

### (1) 「政治的中立性」の確保

公職選挙法上、選挙公報や早稲田大学マニフェスト研究所作成「政党公約政策比較一覧」を教材として活用することは、規制されるものではないことから、客観的事実に基づいて生徒に情報を伝えていくことを旨とし、政治的中立性を確保することを前提に、「実名で」政党表示を行うこととする。

### (2) 「現実社会の諸課題」についての取り扱い

政治とは自分の意見を持ちながら議論を交わし合意形成を図っていくことが重要であり、現実社会の諸課題の中から政治的事象について、生徒同士で課題を取り上げて議

論を交わし、グループ発表をしながら、合意を形成していくという一連のプロセスを体験することは、政治的教養を育む上で大変有効な取組と考えられる。

## 10 「政治的教養」の育成

### (1) 「思考力・判断力・表現力」のうち特に「政策判断」に向かう資質・能力の育成

民主政治や地方自治の発展に寄与する自覚や自治意識の涵養に向けて、18歳選挙権の趣旨を踏まえ、選挙の意義について考察し、自分の意見を踏まえつつ、他者の意見を聴取し、比較し、社会への課題意識を広げながら、政策判断を行い政党選択について判断の根拠をまとめ、表現する。

### (2) 既習事項の「活用」

#### ① 中学校社会科公民分野との接続

模擬選挙の体験や、そこでの社会問題についての考察、また選挙の授業で身に付けた基本的な知識の成果を生かし、実際の政党名を用いた現実的な選挙を体験する。

#### ② 高等学校公民科「政治・経済」との連携

公民科の「政治・経済」と内容的に共通する箇所ではあるが、必修科目「公共」と選択科目「政治・経済」の性格・目標から、その扱いは異なり、担当者間の連携を密にする必要がある。

#### ③ 「総合的な探究の時間」との連携

教科科目との連携とともに、学校教育目標に従った「総合的な探究の時間」の学習との連携にも配慮する。

## 11 有権者（主権者）としての主体性の育成

実際に公開された各政党のマニフェスト（政策公約集）を比較し、具体的な現実社会の諸課題を用いながら模擬選挙を体験することで、民主政治に対する関心を高め、近い将来自らも有権者になることを自覚し、政治参加の重要性についての理解を深め、主体的に参画していこうとする姿勢を持たせる。

## 12 学習後の継続的な学びに向けて（今後の学習課題）

今回学習した公民科「公共」の内容のまとめ「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の前段階である「A 公共の扉」で身に付けた選択・判断の手がかりとなる考え方や、公共的な空間における基本的原理を活用して、今後、マニフェスト（政策公約集）で取り上げられている具体的な現実社会の諸課題について、主題を設定し、個人を起点に他者と協働して多面的・多角的に考察・構想するという学習課題も考えることができる。